

「Corridart」(コリダール)とは、corridor(回廊)とart(美術)の二つのフランス語を合わせた造語です。横須賀美術館階層の回廊型のギャラリーにちなんで名づけられました。

[特集]
集え!英雄豪傑たち
浮世絵、近代日本画にみる
ヒーローたち
横須賀歴史探訪マップ

[展覧会情報]
三沢厚彦
ANIMALS IN YOKOSUKA

[レポート]
ちょっと見えます
ANIMALS IN
YOKOSUKA

第2期所蔵品展
特集:中園孔二展
外縁一見てみたかった景色

[この1点]
牧野虎雄《前向きの裸婦》

編集:横須賀美術館 / 平成30年4月発行
デザイン:藤田 雅臣 (tegusu Inc.)
印刷:株式会社ライブアートブックス
*このニュースは10,000枚作成し、
1枚あたりの印刷費は約36.4円です

横須賀美術館の情報は
公式TwitterやFacebookでも
ご覧いただけます。



吉川保正(英雄豪傑運動競技双六)1924(大正13)年 東京大学文学部附属図書館蔵(複製展示)



第2期所蔵品展

なかその こうじ がいえん 中園孔二展 外縁一見てみたかった景色

画家・中園孔二(1989~2015)は東京藝術大学在学中より、多彩かつ様々な技法で夥しい数の作品を残しました。型にはまらない、奔放なイメージを次々に立ち上げる気鋭の画家として、その短い生涯の後にも「Japanorama」(ボンビドゥー・センター・メス、2017)、「第7回モスクワ・ビエンナーレ」(国立トレチャコフ美術館、2017)など重要な展覧会に出品を重ねています。

中園は絵を描く時の動機について、「出来上がる表面はばらばらに見えますが、すべて自分の見てみたかった景色です」と語っています。溢れる色彩、多種多様な画材による、ユーモラスで不気味な生きものたちに託された外縁の内側にある、まだ見ぬ景色。



中園孔二(Untitled)
c.2012 or 2013, photo by Ken Kato
©Koji Nakazono,
Courtesy of Tomio Koyama Gallery

本展は横須賀ゆかりの中園孔二を美術館で紹介する初めての個展であり、約50点を通じて、鮮烈でバリエーション豊かな絵画世界に触れる貴重な機会となるでしょう。

会期 平成30年7月14日(土)~9月30日(日)
休館日 8月6日(月)、9月3日(月)
開館時間 10:00~18:00
場所 所蔵品展示室北側ギャラリー、展示室8
観覧料 一般310円、高大生・65歳以上210円、中学生以下無料
協力 小山登美夫ギャラリー

この1点

牧野虎雄《前向きの裸婦》

1925(大正14)年 当館蔵



長椅子に両手をつき、どこかきこえない感じで背中を丸めて座る裸婦。唇を真一文字に結び、固い表情ですが、頬は紅潮しています。ややぼっこりと膨らんだお腹の丸みや、横にだらんと広がった太もものかたち、交差させた下肢の肉付きに目がいきます。補色である赤と緑、そして明度の高い白を用いて、肉体の輪郭線や陰影を大胆な筆致で浮かび上がらせることによって、女性の肉感がより強調された表現となっています。

牧野虎雄は、1924(大正13)年に、東京美術学校時代からの友人である高間徳七や金沢重治らとともに槐樹社を結成し、第2回展に本作を発表しました。終生一貫して好んで描いたのは、風景や植物でしたが、1923年頃から1927(昭和2)年のあいだの牧野は多くの裸婦を描き、同展の展覧会で積極的に発表することが記録に残っています。なぜ、この時期のみ集中して裸婦を描いたのでしょうか。

欧米の新しい美術の動向が一挙に紹介された1910年代を経て、それらがリアルタイムで入ってくる1920年代になると、多くの画家が、西洋の伝統的な裸体表現を乗り越え、日本人としての内的表現を追求するようになりました。自己内部に存在する感情や、表現に対する必然性を強く意識した画家たちは、モデルの肉体をデフォルメし、より主観的に、感情豊かに描くようになりました。

牧野虎雄は、帝展審査員というアカデミックな場に身を置きながらも同人活動に関わり、常に独自の画風を追求し続けた画家でした。1920年代半ば裸婦像を集中して描いた理由としては、風景や植物以外をモチーフとした表現の可能性を探る実験精神に加え、西洋画の伝統である裸体画に内面の感情や生命感を発露させ、日本人画家として西洋を超越してみせようとする向上心を挙げることができるともいえます。(NT)

※平成30年度第1期所蔵品展において、牧野虎雄と共に「槐樹社」を創立した金沢重治の特集展示を行います(4月7日~7月8日)

横須賀美術館の所蔵作品の中から、毎回1点を選んでご紹介します。

弟橘媛投身之図 一大浦玉陽



制作年不詳 走水神社

草薙の剣 一安田鞆彦



昭和48(1973)年 川崎市市民ミュージアム(後期展示)

東国に遠征する途中、ヤマトタケルは野原で敵の放った火に巻かれそうになりますが、手にした草薙の剣で刈り取った草に火をつけて逆に火を鎮め、窮地を脱しました。オトタチバナヒメがのちに、走水の海に身を投じた際にのこした歌「さねさし 相武の小野に 燃ゆる火の 火中に立ちて 問ひし君はも」は、炎の中で自分を気遣ってくれた夫への感謝をうたったものです。

ヤマトタケル一行が上総に渡ろうとしたとき、走水の海が荒れ狂い、船が沈みそうになったため、オトタチバナヒメは海神の怒りを鎮めようとして身を投じました。走水神社に伝わるこの作品では、入水するオトタチバナヒメの姿がスピード感をもって描かれています。

走水神社

【はしりみずじんじや】

走水の海に身を捧げたオトタチバナヒメと、その夫であるヤマトタケルを祀った神社。階段を昇った社殿からは、東京湾と対岸の房総半島を見渡すことができます。

アクセス

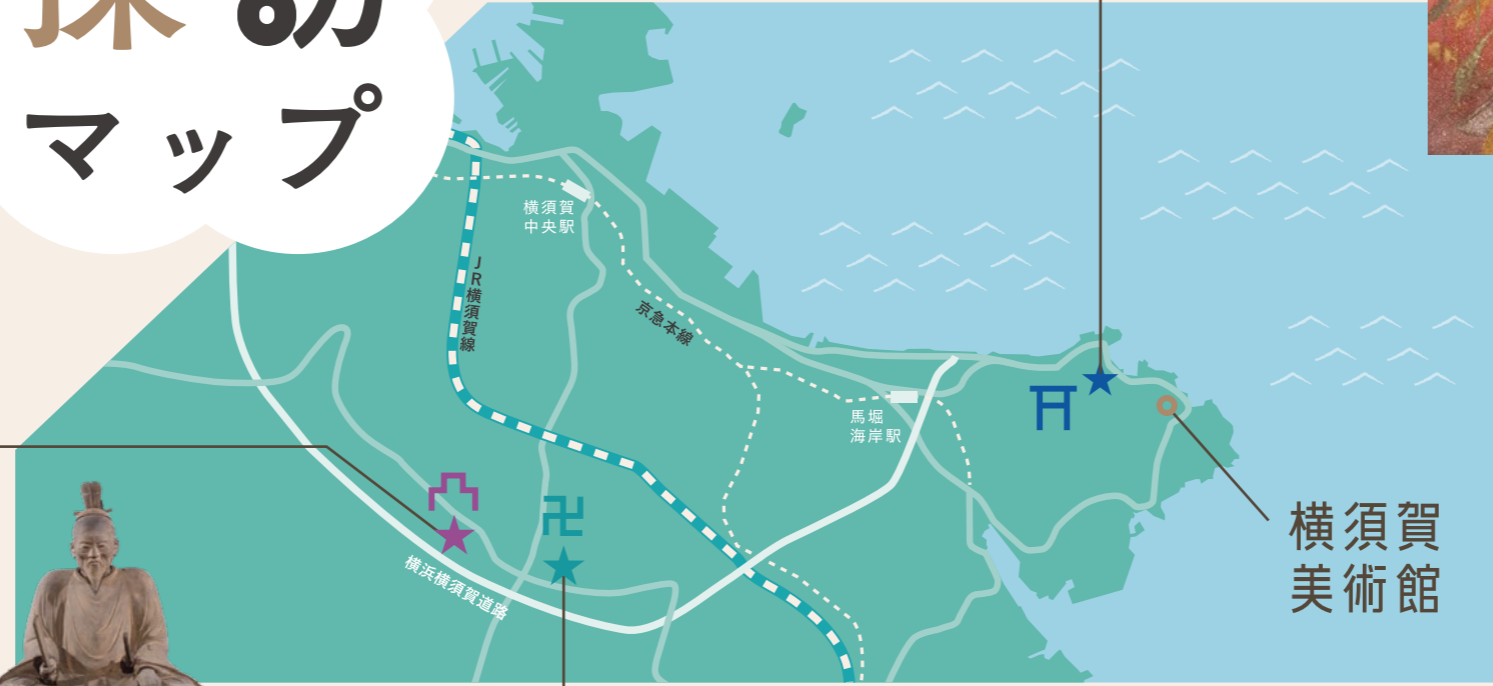
京急馬堀海岸駅よりバスで「観音崎行」に乗車し「走水神社」下車、徒歩2分。横須賀美術館より徒歩10分。



集え！英雄豪傑たち

横須賀 歴史探訪マップ

歴史上や伝説、神話の英雄豪傑たちが一堂に集結する「集え！英雄豪傑たち」では、横須賀ゆかりの人物たちの作品も展示しています。そのなかから、出品作品に関連した市内の名所・史跡をご紹介します。美術館で展覧会をご覧いただいたあとは、横須賀の豊かな歴史文化にふれてみてはいかがでしょうか。



横須賀美術館



木造 三浦義明坐像 (重要文化財)

写真提供：横須賀市史資料室
作風から鎌倉時代後期の作と考えられている作品。(拝観は完全予約制)
※「集え！英雄豪傑たち」展には出品されません。

満昌寺

【まんしょうじ】

源氏再興に尽くした三浦義明の菩提を弔うため、1194年、源頼朝自らが建立したとされる寺院です。義明の廟所や国の重要文化財《木造 三浦義明坐像》が安置されている市内屈指の古刹です。

アクセス

京急横須賀中央駅よりバスで「三崎口駅行」「長井行」他に乗車し「衣笠城址」下車、徒歩5分。
問い合わせ先：満昌寺 TEL 046-836-2317 横須賀市大部部1-5-10
※「木造 三浦義明坐像」の拝観は完全予約制。(拝観料300円)



衣笠合戦の一場面。平家方の金子与一が、負傷した兄・家忠を背負いながら奮闘する姿が描かれています。

衣笠合戦金子兄弟奮闘之図 一川辺御楯

明治25(1892)年以前東京大学 駒場博物館(後期展示)



【きぬがさじょうし】

衣笠城址

平安後期、三浦半島に勢力を築いた三浦一族の居城。城といっても天守閣や石垣のない、自然の地形を利用した中世の山城です。源平合戦において、源氏方についた三浦一族は、衣笠城で平氏の軍勢を迎え撃ちます(衣笠合戦)。しかし、奮闘もおよばず、敗色濃厚なかで一族の長、三浦義明は、味方が逃げる時間を稼ぐため、ひとり城に残り壮絶な最期をとげたといわれます。現在は、石柱があるのみですが、緑豊かなハイキングコースとなっており、歴史ロマンに思いを馳せながらの散策が楽しめます。

アクセス

京急横須賀中央駅よりバスで「三崎口駅行」「長井行」に乗車し「衣笠城址」下車。徒歩20分



衣笠合戦の一場面。三浦義明が敵方である金子家忠の一人当千の活躍ぶりを称え、合戦の最中にもかかわらず城内から酒を差し入れた、という逸話が描かれています。

今古誠画 浮世絵類考之内 治承四年之頃 一小林清親

明治18(1885)年 太田記念美術館(後期展示)

集え！英雄豪傑たち

展覧会情報

浮世絵、近代日本画にみるヒーローたち

前期 4月28日(土)～5月24日(木) 後期 5月25日(金)～6月17日(日)

【リピート割】本展の半券提示で2回目以降500円でご覧いただけます。

数々の伝説や武勇伝を残す神話や歴史上の英雄豪傑たち。浮世絵、近代歴史画の名品を中心に、現代アーティストの作品も加え、約120点を一堂に展示します。時を越えて表現された英雄豪傑たちをご覧ください。

開館時間 | 10時～18時 休館日 | 5月7日(月)、6月4日(月) 主催 | 横須賀美術館 観覧料 | 一般900(720)円、高校生・65歳以上700(560)円、中学生以下無料

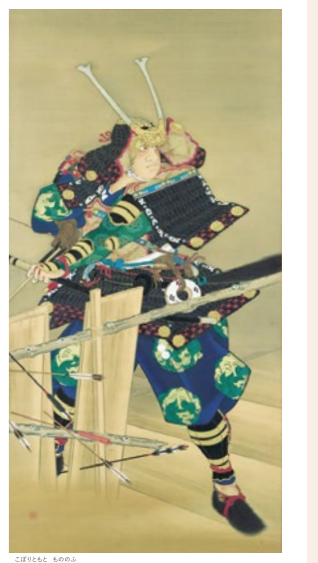
※()内は20名以上の団体料金 ※高校生(市内在住または在学に限る)は無料 ※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添1名様は無料 ※リピート割は他の割引との併用はできません

関連イベント ※詳細は当館HPをご覧ください。

甲冑着付け体験
市内を中心に活動している「横須賀甲冑隊」による、着付け体験を行います。勇ましい甲冑姿で写真を撮ろう！
日時 | 5月4日(金・祝)、5日(土・祝)、27日(日) 11:00～16:00
会場 | 横須賀美術館 ワークショップ室
定員 | 各日先着40組(1組3名まで)
参加方法 | 当日10:00より整理券を配布します。要観覧券。

「集え！英雄豪傑たち」展 クロストーク
本展出品作家 野口哲哉氏を迎え、展示作品や自身の制作について、担当学芸員と縦横無尽に語ります。
日時 | 5月20日(日) 13:30～15:00
会場 | 横須賀美術館 ワークショップ室
定員 | 70名
※申込不要。直接ワークショップ室にお越しください。

学芸員によるギャラリートーク
日時 | 5月19日(土) 11:00～、6月2日(土) 14:00～
※申込不要。観覧券をお買い求めのうえ、1階エントランスにお集まりください。



小堀精吉(武士) 明治30(1897)年 東京藝術大学(前期展示)

頼朝手向の躑躅 一猪飼嘯谷

【たのむね】



源頼朝は、三浦義明の十七回忌の際にツツジを手植えし供養したといわれ、その場面を描いた作品です。ツツジは現在でもたくましい幹を持って、満昌寺の本堂の前に根をおろしています。

ちょっと
見せます



ANIMALS IN YOKOSUKA

三沢厚彦さんは、2000年から
さまざまな動物をほぼ原寸大で彫りだして彩色した
「Animals」シリーズを制作し、
全国各地で個展を開催してきました。
横須賀美術館で開催する
「三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA」の
準備の様子をご紹介します。

三沢厚彦さんとアニマルズが ひとあし早く横須賀美術館に やってきました

美術館の休館日に、展覧会の広報印刷物に使用する写真を撮影することになりました。三沢さんが撮影場所を選んだのは本館のエントランスホール。海が見えるこの場所アニマルズの集合写真を撮るのです。撮影するのは、写真家の浅田政志さん。優れた業績を挙げた写真家に贈られる木村伊兵衛写真賞を2009年に受賞しました。ほぼ原寸大で彫られたシロクマ、ユニコーン、ホワイトライオンといった大きなアニマルズはどのようにして美術館にやってきたのでしょうか？そしてアニマルズの写真はどのように撮影されたのでしょうか？

1. 美術館に到着



美術館に2台のトラックが到着。木枠に入ったアニマルズは、リフトで荷台から降ろされた後、作品用の大型のエレベータに乗せられます。

2. 台車で移動



大きく重いアニマルズは、床が傷まないように敷いたシートの上で台車で移動します。まずシロクマがエントランスホールにやってきました。

3. 配置決め



浅田政志さんがカメラをのぞきながら、位置を決めています。

4. 台から降ろす



クレーンを使って台から床に降ろします。

5. 撮影開始



いよいよ撮影です。

記念 撮影



撮影が終わって、三沢さんと浅田さんがアニマルズと記念撮影しました。

6. 完成!



素敵な写真が撮れました!展覧会のメインビジュアルとして広報印刷物などに使用します。

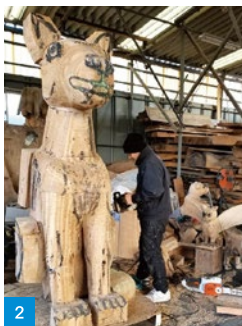
(撮影:浅田政志)

慎重に、
慎重に...

展覧会にむけて新作を制作中



1



2



3

今回の展覧会で発表する新作を制作中の三沢さんのアトリエを訪ねました。

①小田原市内の製材所のなかにあるアトリエ。材料はおもにクスノキを使っているので、あたりには独特の香りがただよっています。

②木材を組み合わせた「寄せ木」に直接下書きをして、チェーンソーでおおまかなかたちを彫り出していきます。(1月下旬のようす)

③3月下旬ごろに再び訪れると、シカのような角と、翼が付け加えられていました。いったいどんな動物が出来上がるのでしょうか??

各部分を
じっくりと
見てみましょう



馬のような翼



翼の間にライオンのような顔



ふさふさとしたしっぽ



馬のようなたてがみ



足はひづめではなく指があります

三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA

| | |
|------|--|
| 会期 | 平成30年6月30日(土)～9月2日(日) |
| 休館日 | 7月2日(月)、8月6日(月) |
| 開館時間 | 10:00～18:00 |
| 観覧料 | 一般900(720)円、高大・65歳以上700(560)円、中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金 |
| 主催 | 横須賀美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 |
| 協賛 | ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網 |
| 協力 | 西村画廊、アニマルハウス、杉本博司、山口製材株式会社 |

三沢厚彦 略歴

1961年東京都府に生まれる。1987年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。1989年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。2000年より彫刻「Animals」シリーズの制作を開始。2001年第20回平櫛田中賞受賞。2005年第15回タカシマヤ美術賞受賞。現在、神奈川県内のアトリエで制作を行なっている。神奈川県在住。

